

## 地域金融連携

### ①大阪信用金庫

#### 「強固なネットワークを活用した伴走型ソリューション」(2022年優秀賞)

**受賞理由：**取引先企業（中小企業）と連携機関とを有機的に繋ぎ、複合的に伴走支援を行う事で地域経済の発展に資することを目的に、営業店の得意先係が受け付けた取引先企業のあらゆる相談を、だいしん総合研究所が連携機関との強固な関係を駆使し、課題解決を行っている。

取引先企業に向けて、補助金（ものづくり補助金・事業再構築補助金等）の申請サポートや「産技研ものづくり技術支援ラボツアー」や「環農水研食品技術支援ラボツアー」の開催、「だいしん創業支援ファンド」活用による資金面の支援等を熱心に行っている。

信用金庫の職員が連携先の各大学に常駐、大学の持つ知見をフル活用して地元企業の商品開発等に大きく貢献している点、大学へつないだ相談件数約 600 件、新事業創出件数約 500 件という成果は高い水準にあり、高く評価される。

#### (実施者)

大阪信用金庫

#### (事業の背景及び経緯)

##### 【経緯】

- 2003年6月  
大阪府立大学と包括連携協定締結。
- 2015年11月  
大阪府立大学からの紹介を元に大阪産業技術総合研究所（技術研）と包括連携協定を締結。
- 2018年1月  
大阪技術研からの紹介を元に大阪府立環境農林水産総合研究所（環農水研）と包括連携協定を締結。その後、工業所有権情報・研修館（INPIT）、行政、商工会議所、中小機構等と連携機関は拡大。
- 2019年5月  
大阪信用金庫創業100周年事業の一環として、当金庫と縁の古い大阪工業大学（工大）と産学連携協定を締結。大阪信用金庫の中小企業診断士の資格を有する職員1名が産学官連携コーディネーターとして常駐。
- 2021年12月  
大阪商工会議所 事業引継ぎ支援センターへ中小企業診断士の資格を有する職員1名が常駐。

##### 【動機】

府大との連携をきっかけに連携機関との繋がりが広がった。中小企業のあらゆる課題解決に本気

で取り組むには、多くの連携機関と強固な関係を築く事が重要であると考えたのが動機となっている。

#### 【特徴】

この街のホームドクターとして様々な取引先の相談業務に取り組んでいたが、2003年6月に大阪府立大学と産学連携協定を結ぶことにより主にもものづくり企業の技術相談にも対応できるようになった、と同時に人的なつながりの濃さが功を奏し、外部支援機関のネットワークを構築できるようになり、それが当庫の強みとなり、お客様支援に活用できている。

#### (事業内容)

営業店の得意先係が受け付けた会員企業のあらゆる相談を、だいしん総合研究所が連携機関との強固な関係を駆使し、課題解決を行う。

また、連携機関とセミナー等のイベントを共催し、会員企業の課題解決を行う。

1. 「だいしん産学連携共創機構」会員企業を連携機関に繋ぎ、企業・連携機関・コーディネーター三者一体となって課題の解決を図る。

#### 【実績】（平成15年度～令和2年度）

- 府大へ繋いだ件数 558件
- 工大へ繋いだ件数 49件
- 共同研究・受託研究・寄付研究 66件
- 産技研・環農水研紹介 217件
- INPIT紹介 10件
- ビジネスマッチング 200件
- 他連携機関紹介 8件

2. 「だいしん産学連携共創機構」会員企業への補助金（ものづくり補助金）の申請書サポート

#### 【実績】

- ものづくり補助金（平成24年度補正予算～令和1年度補正予算 累計）  
464件支援、237件採択、8件受託研究契約
- 事業再構築補助金（令和2年度補正）  
377件支援、161件採択

#### (成果)

- 株式会社シケン (<http://www.kk-shiken.co.jp>)  
大阪府立大学との共同研究により実証した酸化チタン電極の光触媒応用の歯垢除去能力に優れた歯ブラシの開発。半導体光電気化学セルの製造方法について特許取得。
- 株式会社K&K (<http://k-k131.co.jp>)  
大阪府立大学との共同研究によりアルカリ電解水 pH13.1 の生成に成功。 (株)新栄製作所から本事業部門を(株)K&Kとして独立し、以後每期安定した売上を計上。

- エースシステム株式会社 (<http://www.acesystem.co.jp>)  
「全自動連続蒸気炊飯システム」を開発。この理論的裏付けを大阪府立大学との共同研究で解明。当社の「全自動連続蒸気炊飯システム」を大阪府立大学の学内に設置しており、売り上げは每期右肩上がりである。
- みどり製菓株式会社 (<http://www.midoriseika.com>)  
大阪府立大学と連携。地域特産の羽曳野イチジクを使ったスイーツの開発に成功、地域社会に貢献。
- 南宗味噌株式会社 (<http://www.nansoumiso.com>)  
大阪府立環境農林水産総合研究所と「桃甘酒ドリンク」の開発、今秋製品化の予定。地元岸和田の包近の桃の知名度アップに貢献
- 横田水産 (<http://www.yokotasuisan.com>)  
大阪府立環境農林水産総合研究所と「わかめの茎」の開発、今年末製品化の予定。第63回全国水産加工たべもの展佃煮部門において大阪府知事賞受賞。大阪湾のわかめの養殖事業に貢献

#### (事業に取り組んで苦労したこと)

1. 連携が形骸化しないよう活動  
連携をしてはいるが、どこに、どのように相談を持っていけば良いか分からないとならないように常駐というスタイルを活かし、顔の見える関係を構築し、濃い人的ネットワークを形成した。2大学（府大、工大）にコーディネーターが常駐することで情報交換を行い、各支援機関との連結ピンになるように心掛けた。
2. 専門知識の習得  
金融機関からの出向であり、文系出身者が多く理系の専門知識に乏しかったが、様々な案件に伴走型で支援する事で知識習得の場が多く自身の経験則を増やす機会になり、自己啓発に繋がった。
3. 支援機関と顧客とのギャップの調整  
支援機関と顧客では様々なギャップ（時間、知識、価値観）がありコーディネーター（調整役）として双方の代弁者、理解者となり、相談がスムーズに進む潤滑油的な役割を担ったこと。
4. 営業店の得意先係への周知徹底  
得意先係は融資・預金業務が多忙であり、課題解決意識が特に高い職員しか相談を受け付けていなかった。企業のニーズを逃しているケースが多く、支援する必要がある先へのアプローチができていなかった。得意先係が「どのような課題解決ツールがあるのか」「どのような成功事例があるのか」を理解できておらず、周知できていないことが要因であった。

#### (事業の成功要因)

1. 「府大・工大と2つの大学への常駐」 (出向させる程、支援機関に対して真剣に向き合った)

ものづくり企業からの専門性が高い相談は、大学や公設試への相談で解決するケースが多いが、敷居が高く相談を行うことが難しい。常駐というスタイルをとる事で、気軽に相談し対応可能となった。金融機関職員を大阪府立大学（府大）と大阪工業大学（工大）の二つの大学にコーディネーターとして常駐させるスタイルをとることで、気軽に相談し対応可能なスキームを構築したことが大きな成功要因となった。

多くの金融機関が大学や公設試と連携協定を結んでいるが、2名の職員を出向・常駐させるまで本気で取り組んだ成果である。

また、府大だけの研究シーズでは対応できないケースも多く、工大とも連携した事も大きな成功要因の1つである。また、工大と兄弟校である摂南大学への相談も可能となり、ものづくり企業の相談の幅が格段に広がった。

2. 「積極的に連携機関を増やし、強固な関係を築いた」(2021年12月より大阪商工会議所事業引継センターへ中小企業診断士資格を有する職員を1名出向)

会員企業からのあらゆる相談を想定し、対応できる連携機関を増やした。相談した連携機関で対応できない場合も、強固な関係を築いている為、更に別の機関を紹介頂き課題解決に繋がるケースも多い。

また、だいしん総合研究所の職員全員が、各人の専門分野・強みについての理解を深めるように注力した。各人の専門性を高める為、ビジネスマッチング班、事業承継班、創業班等に分けたことも成功要因の1つである。このように、連携機関の増加や体制の整備を行った事で、対応できない相談はほとんど無い。

3. 「課題解決ツールや成功事例を紹介し、課題解決に対してのイメージを持たせた」

課題解決ツールを知ってもらう為の「全得意先係向けの連携機関勉強会」開催。課題解決の成功事例を知ってもらう為、だいしん総合研究所の全職員が月1件以上「総研ニュース」を全店舗へ発出。こうした取り組みを行ってから、得意先係の情報収集能力が向上し、だいしん総合研究所への相談件数が格段に増え、大きな成功要因となっている。

